

# 埼玉 GPN NEWS

Saitama Green Purchasing Network  
埼玉グリーン購入ネットワークニュース  
第23号 2019年9月

～環境への負荷が少ない商品・サービスの優先購入を進める  
首都圏初の地域ネットワーク～

埼玉GPN NEWS 2019.9



## 「さいたま市はSDGs 未来都市に選ばれました。」

さいたま市長 清水 勇人氏

埼玉GPN星野会長がさいたま市役所を訪問し、清水市長にSDGsへの取組についてお聞きしました。



さいたま市の取組について語る清水市長

**星野：**今年度SDGs未来都市に選定されましたが、これまでの環境対策などが評価されたのでしょうか。

**清水市長：**さいたま市は去る7月1日にSDGs未来都市に選定されました。就任以来、様々な取組を行ってまいりましたが、これらの取組が国から評価されたことは嬉しい限りです。

2015年に国連で採択されたSDGsの「誰一人取り残さない」という理念は、さいたま市が目指す「市民一人ひとりがしあわせを実感できる“絆”で結ばれたさ

いたま市」、「誰もが住んでいることを誇りに思えるさいたま市」とまさに同じ方向を向いています。

**星野：**それでは、SDGs未来都市事業の具体的な取組について教えていただけますか。

**清水市長：**まず環境の取組です。食品ロス削減のため、「フードシェア・マイレージ事業」を行っています。家庭で余った食品を受付窓口を持ち込むと、地域商店等で利用できるポイントが付与されるもので、回収した食品は、フードバンクを通じて福祉施設等に寄付されます。「環境よし」「福祉よし」「経済よし」という「3方よし」となり、環境以外の分野にも大きな効果が生まれる仕組みです。

また、2011年に国から総合特区「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の地域指定を受け、ハイパーエネルギーステーションの普及、スマートホーム・コミュニティの普及、低炭素型パーソナルモビリティの普及を中心に温室効果ガスの削減のみならず、エネルギーセキュリティの確保といったレジリエンス性の向上に向けた取組を進めています。

**星野：**これらの取組のように環境分野の取組が他分野に貢献していくことはとても大切ですね。

**清水市長：**経済面の取組ですが、「大宮」は東北、上信越・北陸方面からの新幹線が集結し、東日本の玄関口となっています。本市では昨年、「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」を策定し、ヒト・モノ・情報の集結・交流機能の強化や大宮駅周辺の賑わい創出とまちの活性化に取り組んでいます。函館市、新潟

## CONTENTS

- トップインタビュー さいたま市長 清水 勇人氏 ..... 1
- 第12回通常総会及び埼玉グリーン購入フォーラムを開催 ..... 2
- 埼玉打ち水の環2019 ..... 3
- [予告] 第1回SDGsエコフォーラム in 埼玉 ..... 4
- グリーン購入ネットワーク(GPN) より ..... 4



SDGsについて語る清水市長

市、金沢市など各新幹線を軸に市域・県域を越えた広域連携を推進し、ヒト・モノ・情報の新たな流れを創出しています。今年3月には、「まるまるひがしにほん（東日本連携センター）」を開設し、ビジネスマッチングやシテプロモーションを展開することでこれまで約26万人にご来場いただいております。

また、CSRに意欲的に挑戦する市内中小企業を「さいたま市CSRチャレンジ企業」として認証しています。6月には、企業の積極的なSDGsへの取組みを後押しするため、「CSR経営推進マニュアル」を発行し、市内中小企業へのSDGs浸透に注力しています。

**星野：**経済振興や地域づくりでの広域連携や企業との連携・支援に関する積極的な取組ですね。

**清水市長：**社会面の取組です。本市は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までに、「さいたま市が住みやすい」と思う人の割合を90%以上にする「さいたま市CS90運動」に取り組んでいます。更に官・民・学一体となってCS90運動を推進すべく、本市の運動に賛同していただける企業・団体を「CSパートナーズ」として認証し、パートナーシップを構築しています。

**星野：**最後に、こうした取組を今後どのように発展させていくのかお聞かせいただけますか。

**清水市長：**さいたま市合併20周年を迎える令和3年度に、「(仮称)E-KIZUNA グローバルサミット」の開催を予定しています。

本市では、電気自動車(EV)普及施策「E-KIZUNA Project」を推進するとともに、EVの普及に関する自治体・企業首脳等による意見・情報交換の場として「E-KIZUNA サミット」を2010年から毎年開催しています。本サミットをさらに発展・拡充することで、経済面でのビジネスチャンス・雇用の拡大を図るとともに、既に連携協定を結んだイクレイ(ICLEI-持続可能

な都市と地域をめざす自治体協議会(本部ドイツ ボン市))を始めとした様々な団体とパートナーシップを構築し、国際レベルの技術・知見を吸収したいと考えています。

これらの取組は、人口減少・少子高齢化などの社会的問題についての解決の一助となり、持続可能なまちづくりに大きく貢献するものと考えており、「(仮称)E-KIZUNA グローバルサミット」を通じて、これまでの本市の取組を国内外へ発信したいと思います。

**星野：**SDGsでは、環境、経済、社会面の取組が繋がってパートナーシップの下に様々な課題を解決していくことを目指しています。さいたま市が市政のキーワードとしている「絆」はまさにこの繋がりがやパートナーシップに通じるものだと思います。未来都市の取組を通じて市内の絆がさらに強まり、それが市域、県域を越えて、さらに国際的に広がっていくことを祈念しております。本日はありがとうございました。

## 第12回通常総会及び 埼玉グリーン購入フォーラムを開催

2019年6月10日(月)、新都心ビジネス交流プラザにて第12回通常総会を開催し、会員数63のうち43団体(委任状含む)が出席しました。

総会では、埼玉県環境部長 小池要子様のご来賓挨拶の後、全議案可決承認されました。閉会時にはグリーン購入ネットワーク(GPN)事務局長 深津学治氏よりご挨拶をいただき、引き続きGPNと連携しながら会員拡大及び会員サービスの向上に努めることを再認識いたしました。



小池部長 ご来賓挨拶の様子

総会後は、恒例の埼玉グリーン購入フォーラムを、今回は「SDGs 理念から実践へ 今、企業は」と題し、講演と先進事例の2部構成で開催しました。



広田氏 講演の様子

初めに埼玉大学人文社会科学研究所 教授の広田幸紀氏に「SDGsとビジネスの変化」について基調講演いただきました。SDGs議論は途上国の開発と気候変動問題からスタートしたが、参加型のプロセスを通じて国際社会全体の目標となったことや、経済分野にSDGsが広がることによって、民間企業が課題解決の主役となったことについて経緯を説明いただきました。SDGs目標の範囲はほぼ全ての経済・社会活動にわたり、自らのビジネスがどの目標に当てはまるかを明確化し、情報発信していくことが、今企業に求められているなど、詳しくお話いただきました。



坂本氏 発表の様子

続く事例発表では、第19回グリーン購入大賞 経済産業大臣賞受賞のホットマン株式会社より、代表取締役社長の坂本 将之氏から「国内初の日本製フェアトレードコットンタオルと瞬間吸水『1秒タオル』による持続可能な社会への貢献」と題し、自社での環境配慮等の取組について熱くお話いただきました。徹底して薬剤に頼らない品質の良い商品づくりと、必要な時に必要な分だけつくる製販一貫体制、セネガル産の良質なフェアトレードコットンを原料とした圧倒的吸水性能をもつ「1秒タオル」の製造・販売など、すべて

の工程を社内で行えるホットマンだからこそ出来る取組をご紹介いただきました。



高橋氏 発表の様子

続いて、第2回SDGsジャパンアワード 総理大臣賞受賞の株式会社日本フードエコロジーセンター (J-FEC) より、代表取締役の高橋 巧一氏から「食品ロスに新たな価値を～食の循環によるSDGsの実践事例～」と題し、食品ロスから展開する新たなビジネスモデルについてお話いただきました。J-FECでは、食品関連事業者から回収した廃棄物を処理し、液体状の飼料を製造販売しています。回収と飼料販売双方からの収益により継続性の高いビジネスモデルを構築しています。回収の際には、提携業者に回収量等のデータをフィードバックするとともに、廃棄物を減らすためのアドバイスをしているとのこと。廃棄物回収量が減ると収益が減るとわれがちですが、各業者からのご紹介で、提携業者は増えているとのこと。また障がい者雇用や女性が活躍できる就労環境を整えるなど、社会だけでなく社内環境にも配慮し、離職率は0%を実現しているそうです。

## 埼玉打ち水の環 2019

パリクラブ21埼玉では、今年も身近なヒートアイランド対策であり夏の風物詩でもある“打ち水”の環を埼玉県内に広めるため「埼玉打ち水の環2019」を実施しました。県内で打ち水を行っていただける企業、団体、個人を募集した結果、今回は26団体・個人が各事業所等で涼エコライフを体感いただきました。パリクラブ21埼玉では、昨年同様に「さいたま打ち水大作戦2019」を本イベントのメイン大会として開催し、さいたま市や埼玉県と一緒に打ち水によるヒートアイランド対策や温暖化対策を啓発しました。



さいたま打ち水大作戦2019の様子



東京サラヤ(株)北関東支店



(一社) 埼玉県中小企業診断協会

## 【予告】 第1回SDGsエコフォーラムin埼玉

2018年度よりパリクラブ21埼玉で共催している“低炭素まちづくりフォーラムin埼玉”を時代のニーズに対応した新たな取組として、“SDGsエコフォーラムin埼玉”と改称し、開催します。昨年同様にパネル展示も予定していますので、ぜひご応募ください。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

### 第1回SDGsエコフォーラムin埼玉

～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～

日時 2019年12月14日(土) 10:00～16:30

会場 東洋大学 川越キャンパス

参加 無料

主なプログラム

午前の部：基調講演「仏教から見た環境問題」

竹村 牧男氏(東洋大学 学長)

お昼休み：パネル展示、フィールドツアー

午後の部：分科会

(6分科会同時開催)



## グリーン購入ネットワーク(GPN)より

### ◆【予告】テーマ別勉強会「環境配慮契約(電力)の導入手順」

グリーン購入ネットワーク(GPN)は、11月8日(金)に地方公共団体及び国・独立行政法人等の電力調達担当者を対象にしたテーマ別勉強会「環境配慮契約(電力)の導入手順」を開催いたします。

当日は2018年度に環境省の支援を受け、電力の環境配慮契約方針を新たに策定したつくば市を講師に招き、庁内調整や電力小売事業者へのヒアリング、基準の検討等のポイントについて解説します。

参加申込方法等はGPNのHPをご参照ください。

### ◆再エネ100を目指す新たな枠組み「再エネ100宣言 RE Action」が発足メンバーを募集

グリーン購入ネットワーク(GPN)は6月に、IGES、JCLPとともに、中小企業や行政機関等による新たな再エネ100宣言の枠組み構想を発表しました。

今般、年間消費電力量が10GWh未満の企業、及び自治体・教育機関・医療機関等の組織を対象とした新たな枠組み「再エネ100宣言 RE Action」を発足することとなり、参加団体を募集しています。

年間消費電力量が10GWh未満の企業、及び自治体・教育機関・医療機関等の様々な組織が、その規模に関わらず参加できる新たな枠組みを立ち上げ、日本国内における再エネ需要の裾野を拡大するとともに、再エネを調達できる社会環境の構築を目指しています。

#### ■問い合わせ

再エネ100宣言 RE Action協議会  
reaction@gpn.jp (GPN事務局内)

#### ■入会案内

団体会員、サポーター(個人会員)があります。申込書はHPからもダウンロードできます。ぜひ一緒にグリーン購入を。

#### ■発行：埼玉グリーン購入ネットワーク

【事務局】〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5-3F

TEL.048-749-1217/FAX.048-749-1218

E-mail goto@kannet-sai.org

Home Page <http://www.saitamagpn.jp/>

このニュースレターは、GPN-GL14「印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。



印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます PS19-0018